



代表取締役社長 前村哲路 (左)、環境社会貢献部長 百瀬則子 (右)

●前村 2050年には80%削減という大きな数値目標があります。行動目標は具体的に数値で表した方がお客様にも従業員にも把握しやすいですし、わが社も小売業としてもっと目に見える形に変革していくべきだと思います。

お客様と商品、双方向で成り立つエコ

●百瀬 エコストア1・2号店の「リーフウォーク稲沢」と「ラザウォーク甲斐双葉」は、効率の高いコージェネレーションシステムやヒートポンプ技術などを採用し、さらに太陽光発電や雨水タンクなども導入した環境配慮型モールとして話題になりました。

●前村 小売業はお客様に一番近い産業ですから、足を運んだときエコを身近に感じていただけるようなお店づくりにチャレンジしています。既存の店舗においても必要に応じて最適な省エネ対応設備に移行させ、できる限りエネルギー使用量の削減を図っていきます。

●百瀬 こうした各社の取り組みをお客様に知ってもらおうというキャンペーンをエコ・ファースト企業で一緒に行っています。

●前村 例えばお客様からエコに関するアイデアを募集し、各社のHPやメディアを通じて紹介します。さらにアイデアをもとに、環境に配慮した商品を開発・販売することで、従業員ばかりでなくお客様にもエコロジーに対する啓蒙活動のいい機会になるわけです。

「ecolon」商品の一部は、商品の生産・物流・使用・廃棄までの過程で発生する温室効果ガスの排出量をCO₂に換算し表示する試み「カーボンフットプリント制度」を試行しています。興味をもったメーカー数社も試行事業に参加していますが、何を買い、どんな生活が環境負荷の軽減につながるかを知ってもらうと同時に、今後お客様が商品やライフスタイルを選択する一つの指標になると期待しています。

●百瀬 当社でいえば、従来製品よりCO₂排出量が少ない、環境に悪影響をおよぼさないなど、特に環境に配慮していると認められた商品が「ecolon」(エコ・オン)です。買っていただく商品と選ぶお客様の双方が地球環境を良くしていく。小売業として本来の業務のなかで環境貢献できるなんて、こんなに嬉しいことはありません。

国内外に向けた社会貢献活動

●百瀬 環境保全活動とともに社会貢献活動も、ユニーの社会的責任と考えています。国内の災害支援や車椅子を寄付する募金活動のほか、深刻な食糧事情の国の子供達に食糧支援をするWFP(国連世界食糧計画)の「給食プログラム」活動に参加しています。

●前村 給食をプレゼントすることは、飢餓を救うだけでなく、子供達が学校で文字や計算を学ぶチャンスを手に入れることとなります。食品を扱う企業として、世界の子供達に少なくとも飢えることのない生活をしてほしいですし、命や平和について深く考えられる大人になってほしいと願っています。

●百瀬 昨年、水の都・大垣市の「アクアウォーク大垣」で行ったイベントも大きな反響がありました。

●前村 「ボルヴィック1ℓ for 10ℓ プログラム・お絵かきコンクール」では、子供達に描いてもらった水の絵の枚数に応じて、アフリカ・マリ共和国の子供達に文房具をプレゼントしました。地域の人と世界を結ぶ活動もユニーは大切にしています。

地域に愛されるコミュニティーの場に

●前村 これからの時代はあらためて「経営」がキーワードになります。ユニーとしてなし得る限りの経済効率性と社会貢献・環境貢献の両立をしていかなければ、お客様にとっても従業員にとっても求心力のある企業になれません。

●百瀬 「ecolon」のような環境配慮型商品を作って売ること大きな社会貢献の一つですが、それに加えてお店が地域の皆さんの交流の場、情報発信の場になれば理想だと思います。アピタに行ったらホッと、安らぎがあるよねって。

●前村 ^{カミカミ}要は従業員一人ひとりです。私たちが常に感謝の心をもって、胸を張れるような働き方が実現できたとき、地域で一番信頼されるエコロジー企業として認められるのではないのでしょうか。

さて、話は来年開催のCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)に変わりますが、その成功に向けて、当社もパートナーシップ事業に登録し、人と自然との共生を目指した地域づくりを進めています。

●百瀬 毎年、秋に子供達とさつま芋の収穫体験を行っています。生ゴミが堆肥になるときガスを発生し熱くなること、発酵するときの匂いが臭いこと、土を掘ればミミズがいること。そんな体験をしてもらいながら「生き物が棲む土だから安全な芋が育つよ」と説明しています。絶滅危惧種を救うような保全活動も大事ですが「人はいろんな生物と一緒に地球上で暮らし、植物や家畜の命をもらって生きているんだ(生物多様性)」と子供達に自然と理解してもらえるような活動を続けたいですね。

●前村 与えられた環境を大事にし、生物多様性の保全に貢献することは、明日の命をつなぐことです。未来の子供達に幸せを贈るということです。地元、愛知で開催されるCOP10ですから、当社も積極的に貢献し盛り上げていきます。